

世本何方白糸能卜茂
又嘉志者奈良之鄰
八重桜以小御口并次而
翌日有御返



早稲田大学
文学部図書

62.10.30
雲英未雄

順禮の歌西風よりささく哀しく落飾おぼゆ坊
ちり柳北雨公帯て寂るるおぬ
猿ま子籠を押もる何うと問は是と
善社紙振る一章の佳句あると那ハ
南より歸る人必はくも同く社のさる
おとゆをゆとゆと題よとまん終よ其尾よ
取行く嵐よ今此さるよの物よ随へ

巖水題

猿ま子

巖水公

沛意乃まらに稻先、や

け酒のるは中まの月お

屋みぬありの善き物あり 猿ま子

とまらるる魚とるのく釣意 全

天下 左平 國士 安徳 筆

下畧

首尾

西湖大溝
笛響舎

吾人乃草や 括りし所おとりの

樂只

抱くく海か月の 状箱

一方

系上籠れががれを 懐く保くく

全

詠むく牛に おろしきより

樂只

胡あくくもも 吹り 國境

全

今お立ちや 鞆ゆりも

一方

孫身くすもハ 毎おの 流くも

只

初あくくき 吹小 棧ぬも 裂

方

揚 鏡を せくも 神工 都くしど

全

志くくお 坊のくくも 人 参

只

花乃言日 影ト 思くも 昔 登川

全

水川い く海く 窓の 夢

方

初秋 登

麦林亭

床乃言此くくも 中くも 昔

し由

孟蘭盆や堅田乃掃女丹松

西湖大溝

桐露

侍人乃まやせりい礎

全

樂只

文りちと悲女れ形月途

讀及之松

江旭

片袖と秋もあそり峰乃寺

丹及龜山

蟠国

松江や石居此妻進良もまじ

西湖大溝

曲肱

日よ流く月よかりや雀乃聲

全

松里

又と云ふはつとつハハ入サ人ノ
付もおりい出れり

全

簾じりよ流り水くわくまこ外 仙風

奇仙

次香亭

悲うう良はゆもかよる瓦茶外

夕浦

かり穂より埋む橋も此忘

一方

郭の月移乃疑るう飛つる海く

全

筆架とる海此とるこらま

夕浦

揚り乃るまよとる海、裏小海

全

松と此のま、数妻屋建瓦

一方

をの中を此此とあひく長袴

全

浪と料理よつふ伽羅刻

浦

清々たる夜のそとあふむ發

浦

今人此喧嘩陰みくす海

方

月くも母くともうか後乃乃天

全

白木てけふぶら川の盆

浦

う乳椀此二階の筈にゆり子とり

全

まおくららとくそと下五夜と世と

方

お銀の位支控さ知行寺

全

白雲のくろくまぼろ山葵酢

浦

貸馬とおほくく世の花をい

方

出っりり同七野とメとあ

全

去^名身素と日向と船と雪の細

浦

こくまの種井とまゐり神あり

全

都あぢやくふくおつく提灯籠

方

前庭をく水中とみくま

浦

急くく道虎と追りおく是ほひ

方

入くくつ徳と柳とちり込

浦

空と直蛸音尾との星月夜

全

名知くぬか一南一の鴨

方

呼くくくいろはとほくと杖で磨

全

相寄くくくく大名へ石

浦

涼川に下りてゆく舟の如く加減

五人十人の仲居有ぬ

物^{ナリ}に此上かゝりて紅紫ふ

途中に鏡裏ハハハハ

粥^{ナリ}を煮て煮不^レ唄やニワニ

のふじたるハハハハハハ

ふりりりりハハハハハハ

ふけふけと出と^レ巖より

浦

方

浦

方

全

浦

全

方

舟

世より此舟より本舟乃花の舟

有^レ時月夜^ニ沈^ル舟^ノ宿

初^ニ能^ハハハハハハハハハハハ

鬚^ノ子^ノ跡^ヲあ^けけ^る白^い人^々

櫓^ノふ^れた^りあ^らぬ^さら^んと^しけ^ん

あ^の山^ノ頂^ノ上^ノ雲^ハハハハハ

紡^キ張^をを^敷く^つあ^らぬ^さら^ん

泥^ノ舟^ノは^罪お^もい^ふ舟^ノ

旭舟

一方

全

旭舟

全

執業

一方

旭舟

秋もくもや 庭をぬり土は下溪 一方
 碎 去と指石櫃乃指 旭舟
 隣拂ふふらつふ中一也 今
 子の今ト存行は形 一方
 山崎のふらぬく 今
 心乃字覺を 旭舟
 借居はしつる花乃幕少紙 今
 惜お月と千代は生先 一方

秋之部

東武

上糸と肉と朝庭や 黒木賣 柳居
 名月や せつ子けふ煉乃雲 東登白 柳象
 一面より 弦のわらびに 花をむね 兼岡 布仙
 名月や ねれとく 今より 墨也 自在 祇徳
 小原女乃 けしとく 柳とや 藤の角 桐原
 綿子妻より 今と 今 周や 舟と 雪中 蓼太
 夕月の印と 今と 今 今と 宗葩

雲霞のくはるや 露の草

信及麻績

百童

うづと船芥あ穂し 秋乃くを

西湖

夕浦

却と縁つらくは是くく之々の月

湖雀

麻啼やまほく切くらくま言の室

夕友

妻もあはれあ引あれらうしん

女 翠友志

如角のまゝ人布く山店と訪給くわねの

つらうりく一原志をまきくくくく

松島舎垣

世は心なはれ色くくまあり秋の暮

去下 露利

七夕

年より待おと結けりや言の海

尾箱つ見

龜世

待き月八掃

糸一 結けりしをねくく

こまおぼゆるく

と霞くくふ飛うまふ袖くく妻の月

甲らおぼく

三階

らよふいけく

北書院

月おく

生りさう家うう信正をや種ゆく 尾切 系反

所原川のまうとま橋とのうを北中

ま橋やまのた下うかろの音 花恰 鉄士

まのつとくあうまうり葉山 任男 乙由

ま橋北頃かぬくく障 皆勝 東々

まみらやりま未橋の庭 皆未 桧人

羽形や花一叶乃ううんま 長流

皆照ぬううま 系 足

くひなや後子 後後意 八口

秋乃日やま 按初 疎候

西行も首節 困河

海 雲霓

一 西湖大浦 湖人

葉乃名 系 英凡

亦川 和弱 呂人

玉川 勢及葉 余文

題虫

送人急疲地何及じ一のま

系於 毛感

去りし去りし枯れりしは毫馬分、旭舟

去りし名をいひてはるの羽音は、雪甲

る月や早きを記芝の石一、朝友

之条のありあはくゆかむを隠居、得水

ありしとまをり麻をじやうの、思計

機を織許由とあるを男七夕、楮林

之条の去りや他所しつり信之叔、林宿

下世形次

名月や法月まゝふくまゝ

妻 田社

る月や癖を記新乃山

佐後 藤友

あゝと月香るのまをいひ

けし後とまをくまをくまのま

十合新連 八麻

梨壺は月の機はははあつ水

後月 千別

心入る機とまをくまをくまのま、得十

新菴やまをくまをくまのま、高乙

番れまをくまをくまのま、百一

福毒やしらぬふる車

然也

中琳

事はしるしむらさきの字也

とく〜〜〜

心正くぞんりた力り 五所

弁人

信ふ事通る中〜〜に捨ふ

い修らひの少きうひふり 録

耳朱叟

芳室

あゆ〜〜ふかや記きあのみ

荒島

市門

盗ひ〜〜とぬちあはち能拂ふ

皆得合

高天

あ〜〜や鬼とふれ世乃能〜〜

十角白羽

白羽

そ〜〜ぬ〜〜ふかあはあ〜〜月

喜連

旭舟

ちぢれ物此雨り海や岩道築

知流

度はやん〜〜か〜〜あ〜〜月

石水

月さほや在界乃人の鼻の元

葉橋

く〜〜あふ〜〜い〜〜り〜〜あ〜〜

一窓

草〜〜あ〜〜ま〜〜あ〜〜り〜〜ま〜〜

龜石

の里や〜〜と〜〜さ〜〜ハ〜〜麻の老〜〜

兩石

瀬〜〜と〜〜あ〜〜ぬ〜〜を〜〜り〜〜

花浦

婦人義也月花の席を定しん人禮なりと
句とらんも作者の意のまゝをたすハ智也
句と連續一く行頗りうごらハ信也誰ハ常
あつばとんや客の白ク既トキ道成也

願くハ句と竹ん

月湯一都此小庭も銀砂子

あやみゆり〜〜〜
惠之得〜〜〜宵月了晴〜月の空

丹小林寓人

色葉堂

惠叙

新影也傾城とま〜麻入〜
京連 言湖

石と〜や〜抱付〜
鬼盃

十ふ〜此〜
干州

湖乃〜
吐雲

か〜一〜人〜
龍泉舎

名月や千尋も〜
向陽軒 可笑

行〜や〜
素風

不性〜
可穿

名月や目のこころは多し 千載堂 大石

一糸の法多軒くさりの月 為利

明くく氷を月の一衣の形 野人

月より人未谷より佳の形 奇仙

口より中より流の如く瓢の形 十合新 八百彦

追加

古寺と牛馬の形 長生庵 流翁

くわくか

四季混雑

亡師

秋也ハ去さむくはく人の御方掛 西角翁

吸筒はさくくやくくはと家 一方

流くはみよれくみ柳うね

牛の舌子南く流く 勸小

浪うたぐ類く口吸 蓮の心

言まや青侍乃一節 矢

初秋や毎の夜 多き夜よさる程

ふとりれ尾に尾結く一星一板 一方

雪月ハききよりよるよりの月 ニホマナ 玉月

根香や根の藁のそら所 全

初葉やゆりの藤の灯の火の声 人 三枝

橋たれ焼火のまゆやふも啼 木サハ 木二

鳥あやま啼啼一 起さくく 大所 花鶴

灯のくく雪のやより雲 全

待らや芥の根まきく はる 二水

柳〜柳子藤や雪のむ



冬部

香稻菴

埋さや老く一くちあまへ新 竿秋

起くく酒原おこさるまを言仙 一方

雪の中と出くお仙の氣清う那 重波

初雪や昔此一葉子陽くなく 得水

冬まやふとさう屋を家後 玉之

志くくや横川を下るおん松明 一方

東年

鶴孔葉とや所作く乃木樵 馬光

鐘乃音の松子ぬけりりを柳、 宗範

降し雪よ粒志くく一 猫乃志、 冬解

う川く雪家己う志すりや初一れ、 貞屋

炉心茶とや中れ色冬くくあ音、 平砂

お鳥やふくせに雪の一はくも、 祇徳

猿まけりくく乃雪うふ雲おか、 法涼

一年七書ぬ屏風のまきく如、 桐原

餅を食ひてはゆりては 柳の水、風葉
之は月を極りて貞女の巨魁なり、若仙
洞窟に在りて火を焚くれば、李趙
雪の如くは鐘を鳴らすは竹の音、可夕
本乃りて是れはより一の冬を立、凍亀
やうに乃て是れ一合なり、若くは
宿願を成すは是れ一合なり、
物ねのくは是れ一合なり、
信長 羊我

ありては吹折るは月、
十合、由連 彦乙

口切や程く解を盡しあり、得十
立るは池のうらみはく雲を立し、八房
芥を杖推しありて清くは水、笛指
棒や切りて是れは雨の火を立し、百一
口切や程く解を盡しあり、得十

歌集

池よりありては是れは月の錦なり、
十合、舟 八百彦

葉乃香や口切とぞなり 晴人集 景西 一 鷺

信陽の秋の月のはるかに 泉川

こころの秋の光を 千刈

初雪の宣土のうらみおあつた 吐雲

三日月の夜に 高人の神をうら
けりの中へ 又 瑞ひこ

くはるるそ まゆく 孤や 夷 梅棧 文意舎

口あつた 猫も 追ひ きて 一 鷺

生け木に けり 玉意の 一 鷺 可学

日ハ横より 照らさるる 仙臺 曰山

医案より たり 脈や 少 長流 京東山

も 仙や 梅よ たり 乃 梅干

も 風水 下徳

あつた や 勢田か 休山 江島

部 白鳥 若及山

う 蟠國 丹及山

掃一ツ 芥菜 然野

頃混雜

白粉より解くく魚んじ世乃まね 西湖 柄鈴
 ららりききしきき初海夜や時すね 曲肱
 衣かきや園くくくく雪乃曉 仙風
 花ききき花庭や御室れ馬の初 湖人
 馬車くく坊下く青あり葉のむ 湖浦
 まくくをききききききききき 樂只
 ききききききききききききき 和列僧 呂人

水く夜やふくく又きき星乃色 東國
 きき月や千乃と水く帰る水 東陸
 きき入まきき口癖きききき 夏水
 御中きききききききききき 秋社
 きききききききききききき 東山
 凡止んくく鈴乃ききききき 班鷺
 きききききききききききき 上落
 きききききききききききき 下落
 きききききききききききき 風水

月上列の名乃卯や田ぬのこり水 沽石

ふか居も一こゆりこ吹高う那 喜老

杉中々ゆりこふすさう肌 沽涼

神言や先ハ斗ふこれこく可 康籬

成是乃路や唯も度ら子雲の眼 鉄鉄

まら是れや楠つらこ凡の音 休山

神子月乃正部月あかり

あさこかの吹高うこく

新龍のこりこまらぬと 命

凡乃之命 千席

唇乃うぐく枝あり冬至を日 京都馬蹄

らるるふりやまらぬふいのやう 雪甲

あかこや店へぬる紙も鴨の姿 思計

田うらぬや馬乃指沓あほ目と友 朝友

まぬ夜これまらぬはれを片と海 里落

此里乃入相をた一一くれぬ 旭舟

情勢の目少那より流る

室のや神乃まらぬるをうた 旭吾

幣抄六ノ〜〜〜〜根世や神を界抄六ノ 渭水

垣一抄六ノ主を以てありや、梅の〜如 雲寛

那野乃着や、後よ〜る、海子の鳥、 固河

輝れ日と一入白〜〜〜〜〜、 疎候

枯芦や、高〜〜〜〜〜、丹波山 藩国

西湖よ越りしは月のを夜

浦風よ権師のおろそけ

河波乃月〜限や、少急〜取リ 羽呂能代 羽角菴

津よ乃つ〜と、空りや、少〜の梅 知栄

奇僊

千載堂

丈石

乃〜乃〜二日〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜立〜〜〜 椽 一方

船之橋坊、松乃、障〜り、舟、呼〜り、み 全

〜〜〜〜〜人の、中、ぬ、を、さ、さ、さ 丈石

関、書、如、舟、〜、や、出、か、月、む、〜、川 全

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜 一方

秋、〜、り、若、若、〜、南、ふ、若、若、〜、河 全

入、相、〜、や、〜、馬、と、朋、〜、寺 丈石

ふりまういずくぬのいふ乃事 一方

下廻りけしきく大伽藍の香 大石

所儀深河内をなすをささるる 一方

おきく路のよの九段と四 大石

二線とくくくえり續燈堂 全

乙亥くくくあふり雨の音 一方

法堂あり落く鴨子の音あり 全

誰くひくくこれ神より虫 大石

なすくくくこのあふり月名も 一方

思國くくく報業くくく 大石

^名名婦入乃ゆめくくくく 一方

鬼くくくくハくくく 全

祈はりの息子読とくくく 大石

くくくくくく恩も 一方

藤くくく知れぬ家く物くく 大石

ま日れ御旅をくくく 全

夜市くくく又橋を解とくくく 一方

碁くくく治高印と駕籠くく 大石

せりくくく園くくく粹くくく 一方

胡くくく路くくく 全

柳〜の角ふ乃下〜の李 大石

安井の鶴〜之乃飛 一方

心〜の湯〜の〜を菜〜は 大石

帛〜の〜雲の〜を〜と 一方

あ〜の〜狼〜の〜 玉芝

葉〜の〜葉〜の〜 一方

葉〜の〜花の〜の〜 大石

ら〜の〜凍〜の〜の〜 玉芝

奇仙

十合奇

彦〜者〜れ〜の〜穂〜の〜の〜 八百彦

と〜れ〜の〜の〜の〜の〜 一方

餅〜の〜の〜の〜の〜の〜 全

徒〜の〜の〜の〜の〜の〜 彦

夕〜の〜の〜の〜の〜の〜 全

去〜の〜の〜の〜の〜の〜 方

弟〜の〜の〜の〜の〜の〜 全

唯〜の〜の〜の〜の〜の〜 彦

花巻に調子ありて側子時松
氣もあもむ物々ハ
伯母をて誥判にむとせ公り
紙はとるもは乳母に衣通
竹下結もまごまくと巻標
髪造もまごまくとけりく
系北火とるもはも真めみあふ
いり水わりゆ、馬市の昏
殿持の情氣も傳ふ月と花
マ、ありやと花造も草
彦 全 全 方 全 全 彦 全 方 彦

連河流乃一矢ありてその雄子のあ
癖 ころも水と茶と成るは
とよは物なり影のぬくま
牛后風呂も海へながゆ
者 夢も晴間から能を繪りて
らいさのあはこばと印也
十寸鏡もはたきあはるる
叫 けりてとるを侍師に歌を
知恩院へ死に居るもまけり
柳 畏、けりてとるを膏力
彦 全 全 彦 全 全 彦 全 方 彦

おとくはと極多しと記すあり

一方

千部佛と高倉日ほと

毛越

あしけれ下流とく里のしほふと

素風

毒う早う川傷のしほふと

河川

枕神わとく聖候乃とく

う草

六日月れ眼く筋の板

素風

序くは去大名、はとくはとく

毛越

扶抄れ外花乃とく

呂人

着登る地とて至う穴のちとく

河川

梅よりとく相織ぬとて

一方

右
とくは方れりしりハ布と記す言佛

う草

氏とくはとく座記とく

毛越

五月あり静とくわとく素風

素風

隣とくはとく川とく

河川

長命れ相を掃除と根より

呂人

牛よ、かまうとくは木、麻とく

う草

忘乃町の浦とくき、板の高

一方

書とくあはとくく、嘘とく

呂人

難波津ハ河原とくく、ゆり、と

毛越

石とくはとく借り、駕の号

素風

雨余りけりし龍の神能奇 水音

福成はくはよし伊那の寺 一方

花あけの初子け花をちいさく 合

魚をよめるし膳立をせ 水音

ゆき乃非官紙かたに在は馬 合

せりし〇二三里夕や〜月 一方

送り火の焼控ぬりに雪丸ゆき 合

露の珠乃朽木ハ寒く山ノ筆 水音

山目續人あ〜さ〜流〜蝶如と 合

丸くを〜あ〜持金とむ光 一方

二
先きの年と字に惚〜至能ハ男 合

後合は白はむまぬ居ぬら 水音

碎〜勢登屏風〜や〜叫〜流 合

光〜し〜鳴〜沖〜け〜み〜く 一方

郭云石山〜し〜舞〜お〜と有ハ 合

中五人あ〜し〜る森連た〜し 水音

傘に鳥帽子け〜朝〜さ〜り 合

抱にあ〜し〜反〜せ〜日神〜杉 一方

傾城を皆場〜や〜隊大進者 合

岸〜せ〜〜踏踏〜以〜進〜 水音

琴ハムヤ美ノ人モヤ少シノ結 東衣 風葉

長クモ澤シクハ清キ梅守 山人坊 李趙

衛立ノ志イ色紙乃吹ク一ノ方

中ノノ角ッホフモ信シ

新トイツカハニ應トノカ王

羽織をとらふりた夕月

石郷ハツメ拵キ京ノ林

世れモツクハハ底ノ音

葎乃ヤクハメ乃瓜トツト

らヤク口ハ暖ハハハ

方 趙 紫 方 趙 紫 方 趙 紫

活後ノ高トヤウリ葉ノ志ノ

まハリハハリ五モ投入

誓ッホツクハヤレキハハ

ハヤリハ百トハハハ

細川ノ揚子ノハハハ月乃宣

新海ガハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

咲ミハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

方 趙 紫 方 趙 紫 方 趙 紫

ま月子中福乃晴をかきかき

木偶くくは棚の段に

ふいりか半かちかちと

やしくとにふ 習礼

新^ニ宿くく婿くくくく

青葉の這入椽^ニ浄く

造管くちくくくお名に布留のま

新^ニ色くくくく月^ニの川場

師このちりくく娘んまま

やりくく種やくく葉^ニの葉

趙

方

全

葉

全

方

葉

趙

方

味^ニ味揚れをまきまき

くやふくくくくをい様掃

地^ニ形のほり借金をれ側ま入

まのくく扇^ニの中^ニに様樂

ほくくくか^ニりくく様^ニちり紙も

と那^ニりくくくくが世塵

ほくくくくくくが田^ニをま

ち^ニ中^ニの結^ニの側^ニくくく

り^ニが^ニりくくくくくく日^ニ行^ニ謙

賭^ニま^ニくくくくくく家^ニと張

三三

三三

趙

方

全

葉

全

方

葉

趙

方

方

葉

全

趙

方

趙

葉

趙

葉

趙

今平一ととりふまふまふてこまじき

方

新法行そもの

腫

趙

つらつらあつらういひの瓶畏

索

邊人ともいふ下も大叔又

趙

神法山漢留し新くおこ付

方

河嘉しくれ給く正月

葉

日尚りの柱の笑顔むとあり

趙

せとおれ給あふい

方

一盃く又一盃一笑三嘆一こぞと想

鏡一心得し河字を徹く多く有怒

乃能くし眠筆と破き日々に惟悴たり

お川一とくも一弦がたたきとくはるん

扉といふもんももれら故友乃来りて

いふく世に沈潜する今くありま是と

上座在れ字たり子くはれを賞とらハ

とらくもいふもや一此ハ座中をいふこと

知く又座中より我乃好ノ要ありては

志くはは是別中く沈潜すも梨

地をくほくくくく短少く誇ハ人
情の常一なり腐儒も此れ正統
と云ふんとおもひて雲霧も眼を
しるすもくくく麻とほきやあ
まひんてはくくくくく

くくくくくくくくく

雪の明

丹列電山魁星堂

蟠國稿

本くくくくくくくくくくくくく
老くくくくくくくくくくくくく
信くくくくくくくくくくくくく
神くくくくくくくくくくくくく
あくくくくくくくくくくくくく
まくくくくくくくくくくくくく
初くくくくくくくくくくくくく
窮くくくくくくくくくくくくく

江都 夕浦
東 湖倉
葉橋
知流
奇箇
水音
相舟

老乃批了... 一忘
... 飛石
... 雨石
... 仙漢
... 可爲

初... 白扇
... 西角爲

十月や... 練石

一... 竺秋

... 並田舟 誇人

... 竹葉菴 壺角

... 梅北菴 江

... 芦翁舎 奇仙
... 錦花堂 隆志

五

志くく女龍室山乃

賣り松系

長生菴

追加

春日

去年候子抱つて梅のつる木

半時庵

貴臨つてつとつたりと

垣越ゆるり一時

風の色

五

往丙寅の冬山崎と美人

つらつとをきりて東武一

越りて市性年乃びり

暫彼地は巨一かゝ行

く終と好くまゝに地

の地とよき見所なり

右述又述るる事は
下りくるといふは
よき乃其の名所
江都平
除くは
是と云ふに述るる

答唱和乃白く
漢語茶公
次は都鄙の好
乞ふるは
言はれとらり
二冊と云ふ

梓ノミヅノシノ家
号オシノ自書

洛上舟指

西角庵

寛延元辰年

秋七月

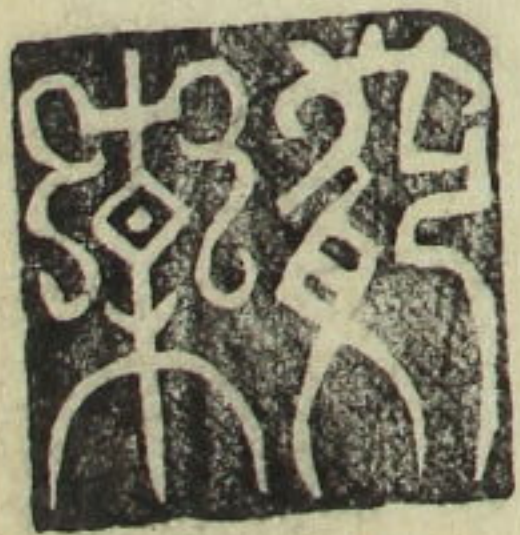
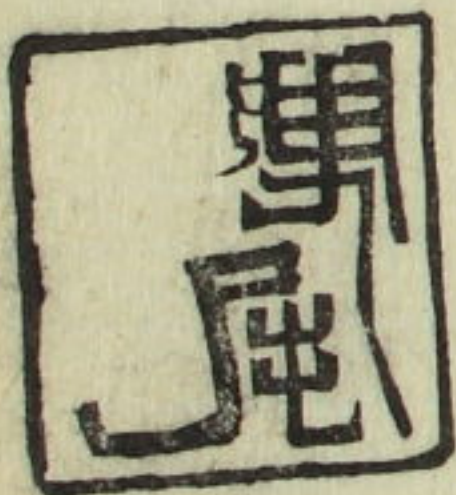


惟夫俳優為事也誠美
焉佳象動其性風流和
其情六義我調而千慮述矣
粵 洛北宗近一方師往年

經歷于東陽而探於勝景
觀于名跡或工秀句亦養
志靜終歸於京師而普
襍群賢今般刊集一卷
矣可謂風雅龜鏡焉予

雖不與其道以莫逆故忘
愚陋叨為之跋實可愧
哉詩云樂只君子德音
是茂蓋謂之歟

哄々醉翁竒樂跋



書林

江戸本橋南一町目
太田庄左衛門

大坂心斎橋筋順芝町
柏原屋兵市

京坂川通後小路下ル町
錢屋庄兵衛

藏版

湯とみゆに流すはし
の

此中何方に
は

糸の作れ小川庄

方治あり
は

以上

小國屋入

